

令和2年度第3回神戸市子ども・子育て会議「教育・保育部会」および
第2回神戸市市民福祉調査委員会 児童福祉専門分科会「保育所等認可部会」

(合同会議) 議事要旨

日時：令和3年2月10日(水) 10:00~11:42

場所：神戸市役所1号館7階・オンライン

1. 開会

2. 議事

(1) 幼児教育の理解の推進について

●事務局

資料2により説明(省略)

○委員

- ・このたびの情報発信は、地域や家庭での幼児教育の重要性の啓発になるのではないかと
思っている。
- ・私たちの現場は、休みなく感染防止に努めながら必死で子どもたちの安全な環境を用意
し教育・保育を頑張っている。1年以上このコロナを経験してきたが、現場にいて、
2号児・3号児の保護者が去年3~5月あたりの厳しい時期に家庭保育や緊急事態宣
言で会社の理解が進み、在宅ワークが少しずつ増えて家庭で子どもといる時間が増え
たのではないかと感じる。
- ・子どもといる時間が増えたことが虐待につながる例も聞かれるが、多くの親は我が子へ
の関心が増えたのではないかと感じる。1号児の親は以前からそのような様子が見ら
れるが、2号児・3号児の親は仕事が忙しく、子どもより仕事を優先する傾向がある
ということを、以前からこの会議で申し上げてきた。しかしこの間、2号児・3号児
の親御さんも、しっかりと家で関わってくださる方が増えてきたと感じている。
- ・そのような中、どのように家庭で過ごしたらいいのか、また、このコロナをどのように
乗り越えていったらいいのかという情報をとても欲しがっている、要望しているよう
に感じる。「行政はどう言ってるんだろうか」「行政のホームページも見ています」
とか、「園ではどのようにしたらいいでしょうか」、「どんな遊びを親子でしたらいい

いでしょうか」、このようなことを素直に質問してこられる親御さんもおられる。そこで、「ママフレ」や神戸市が発信する様々な情報サイトを通じて、そういう親御さんに情報届けていただくということは、とっても素晴らしいことだと感じる。

- ・「教育・保育」や「幼児教育」という括られ方をしているが、こども家庭局であれば、0歳児からの子どもも含め、そして胎教から、ぜひとも「乳幼児教育」という文言で一括りにしていただきたいと思うし、家庭への情報発信も大切にしていきたいと思う。
- ・もう一点が、家庭への情報発信するときに、長文で書かれると、普段読み慣れている人はスッと読めるが、専門用語的な言葉もあるので、簡潔に、解りやすくしていただくことが必要ではないかと感じた。

○委員

- ・2ページからの文章を読んで、確かにそのとおりでないと考えるが、4段目の段落、「どのような困難な時代でも」という部分からの段落について、これが理想の状態かもしれないが、各ご家庭、それからお子さんの状況で、なかなかここまでを思えない状態の方もいらっしゃるんじゃないかなと少し思う。どういう人物像を目指すのかというときに、「「予想外の事態を乗り越えながら、自らの人生を切り拓き、より良い社会づくりに貢献していくことができる人」を私たちは育みたいと考えています。」というところが、保護者の方への心理的な負担というか、そういうことにつながらないかなという危惧を少し個人的に持ってしまう。そこは、ほかの皆さんや事務局の皆さんのお考えもあると思うが、一意見として少し思った。
- ・「自分は結構いいやつだと思えて」という言い回しが少し気になる。「自分自身や周りの人のよさを認めることができ」ぐらいでとどめられてもいいのかなと感じた。

○委員

- ・「自分は結構いいやつだと思えて」という言葉ですが、自己肯定感が高まるような言葉にちょっと変えていただいてもいいのかなと思う。

○委員

- ・はい

○委員

- ・すごく詳しく見たい方もいるし、ちょっとしか見られない方もいるので、詳しく見る方は詳しくでいいが、見ただけでわかるというようなものがあつたほうがいいと思う。

- ・ご紹介いただいた兵庫県の取り組みを見たが、私の子どもが通っている保育園でもその冊子を配ってもらった。私は仕事柄よく見たが、きっと見ないでスルーする保護者のほうが多いのではないかと思った。ホームページや「ママフレ」に掲載したり、そこにアクセスしてもらえるように努力することは当然大事だが、せっかく今、幼稚園や保育園に通っている方が増えているので、「こういうものがあります」というお知らせの仕方も工夫が必要ではないかなと思った。せっかく県が一生懸命やっているのに、置いてるだけではすごくもったいないなと思ったので、そのあたり工夫が要るかなと思った。

○委員

- ・皆さんおっしゃったように、やっぱりこの文章をホームページに持ってくると、恐らくちょっと圧倒されて、すごい何かしんどくなるかなと思う。なので、ホームページで見せるときにも要点をちょっとまとめていただき、例えば、神戸市が目指す、いろいろなタイプがあってもいいかなあとは思う。
- ・「どのような困難な時代でも」からの段落。今、教育・保育で知育を重要視するのが神戸はすごい独特だなと思っている。あと、転ばないようにすごく歩く道を整備している親御さんが多くて、転んだときが結構大変なことになっているという実例をよく見る。その辺を「いいんだよ」ということを伝えてほしいなとはずっと思っている。
- ・そういうところを、文章でなくて、うまく言えないが、キャラクター設定であったりとか、端的に視覚から入るような形で何かあわせられると、今のママたちも見るとかなと思う。
- ・幼稚園とか保育園、幼児教育の中で「遊び」に含まれている意味はすごく深いと思う。幼稚園の講演会に行ったときに、先生が鬼ごっこみたいな興奮する遊びが非常に情緒にいいんだということをおっしゃっていた。最近、大きな声でギャーという遊びがない。そういうことをさせることでこういう効果があるということを知らないので、みんなが避けている。「そんな大きな声を出したらあかん」ということにつながっている。そのあたりを「こんな遊びを親子でしてみませんか」というところで終わる方がいてもいいと思う。
- ・それに注釈として、「こういう場合、こういうことを目指してるんですよ、幼稚園では」とか、目的も含めて、何段階かに情報を分けて、最初のページで見えるもの、そこからクリックして見たい人はどんどん進んでいけるような、そういう作りにしても

らうといいのかと思う。

○委員

- ・連盟の役員会で話をしたが、この文章の内容自体は大事だが全部読み切るのにやはり工夫がいるだろうなど。短くするのか、端的にするのか。大体そういう意見で集約された。
- ・特にここが大事だというのは、やっぱり「遊び」の部分の解説。「読み、書き、そろばん」という言葉があるように、お稽古事のような、学校のいわゆる一斉教育スタイルのような形が教育だというイメージで思っておられる日本の方が非常に多い。
- ・この「遊び」が大事なんだということは、幼稚園教育要領や幼保連携型認定こども園教育・保育要領、そして保育所保育指針に、「「遊び」を中心に教育を行いなさい」と書いてある。「「遊び」は「学習」だ」とも書いてある。これはもう世界共通の話なので、ぜひとも保護者の方々、市民の方々にご理解をいただきたい。「就学前の教育はこうやって進めていくんですよ」ということ。ここは絶対に必要だということ。
- ・「予想外の事態を乗り越えながら」というのは、一連の教育改革が今されている。7～8年ぐらい前からスタートした。この「①知識及び技能の基礎」、「②思考力、判断力、表現力等の基礎」、「③学びに向かう力・人間性等」というのは、就学前後でここまで共通している。。就学前が1点違うのは、①の「技能の基礎」という言葉がついているということと、②の「表現力等の基礎」。ここだけの違い。就学前から高校までの学習指導要領、これは最終の目標はここに置きなさいということも共通している。このような目標を置いた目的は「予想外の事態を乗り越えながら……こういう人間を育みます」ということ。一般の方は余りご存じないが、こういう人を育てるための手段として、①から③の目標を置きますという教育改革がなされたということ。
- ・さきほどおっしゃった意味はよくわかる。違和感を感じる方というのはいっぱいおられるので、その辺のところを就学前としてどう表現をするのかというところが必要かと思う。
- ・この原文を見て、いいよねと思ったのは、第3段落目。我々は阪神・淡路大震災という未曾有の体験をした。このコロナもそうだと思うが、こういうときに力強く生きていくんだというようなことは、これからの就学前の、人間が一生幸せに暮らしていくための必要な視点だとは思ふ。そういう意味での、ちょうど国が考えている「予想外の事態を乗り越えながら……」という言葉とは一致している。一致しているので、この

表現は何らかの形で残したほうがいいのではないかと。すべての人がそうできるわけではないが、乗り越えて行ってほしいというような我々の思いもある。そのために、今、就学前の教育をどうするんだというようなことがある。その辺のところを柔らかくどう表現するかというのが、これから考える表現力になるのかなとも思う。

- ・いずれにしても皆さんのご意見を取り入れてやっていくということ。

○委員

- ・コロナのときに、私の家では、自粛期間中に、5人子どもがいて、子どもとふれあう時間がすごく長くて、5人があの長い期間ずっと一緒にいれるというのは、私としては幸せな時間だったなと思っている。
- ・この文案が、この形で出されたら、ちょっと固いのかなと思った。それから、この下のほうに例で「鬼ごっこ」のことを書いてるのは、すごいわかりやすいなと思った。そういうのを絵みたいな感じでやられたら、すごいわかりやすいかなと思った。

○委員

- ・非常に端的に文章が書かれていると思うが、一般の方が読まれると、ちょっとしんどいかなという点は否めない。皆さんがおっしゃっていたように、もう少し簡潔にという考え方もある。
- ・「乳幼児期」と一つにくくってあるんですけども、「乳児」と「幼児」では全然違う。そこら辺のちょっとメリハリといか、そういうのがわかればいいかなとも思った。
- ・「「遊び」こそが、この時期の「学び」であり「学習」なのです。」というのは、昔から言われていること。だが、「遊び」というと、大人の遊びと同じように考えられて、「遊んでばかりいたらだめですよ」というような親御さんが多いと思う。なぜ遊びが大事かということを少しわかるような形で表現できたらいいのかなと思う。
- ・小学校からは、たくさんのお友達と一緒に授業を受ける。これは、例えば「 $1 + 2 = 3$ 」とか、あるいは「読み書き」なんかも入ってくる。これは抽象的な観点から学んでいくもの。ところが、幼児期というのは、抽象的な物の考え方というのはまだできない。ですから、具体的なものを通して学んでいく。具体的なものを通してということが、つまり「遊び」につながっていくんだということ。
- ・「学び」でも、抽象的なものを通して学ぶのと具体的なものを通して学ぶのとは違う。だから、発達段階でいえば、乳幼児期は具体的なものを通して理解できない時期であるということで、具体物を通して、つまり「遊び」ということになる。その辺の

理解がまだまだ一般的にできていないのかなと思う。

- ・兵庫県が作成している「ひょうごっ子」は皆さん持っているのか。

●事務局

- ・ご案内している。

○委員

- ・この7ページの文章の中に、「幼児教育に教科がないのは、この時期は学ぶ内容が重要なのではないからです」云々と書かれている。「学びの内容が重要ではない」という勘違いをされては困るなとちょっと私は思った。学ぶ内容は、小学校へ行っても、乳幼児期にあっても、とても大事なこと。「学び」はとっても大事。その「学び」の方法が違う。抽象的なものを通して学ぶのと具体的なものを通して学ぶのと、その違いがあるだけで、「学び」の内容はどちらも大事なんだということ。これを読むと感違いされては困るなとちょっと感じた。

○委員

- ・先ほど言われた「キャラクター」はいいなと思った。これも動画で流れたら一番いいのかなと思う。ママフレに、例えば「ママフレ君」みたいな、お母さんを応援するようなキャラクターで、パッとママフレを開けたら「頑張ってますか」とか、「お母さん、いつも頑張ってるねえ」というような優しい言葉で語りかけてくれるようなキャラクターがいて、そのキャラクターが、長文もやさしく説明してくれると、スマホで見るとき、文字を拡大して見るのもなかなか大変なので、耳から情報が入ってくるというのもいいなと感じた。その「ママフレ君」の口を通して、情報発信してはどうか。
- ・一つ気になるのが、一般のお母さんのとらえる「遊び」と、私たち幼児教育界にいる者の「遊び」と若干ずれるところもあるということ。もちろん「遊び」は大切ということだが、「体験」というのがどこかに入ってもいいのかなと。遊びは、具体物を通して色々な体験をすることであり、抽象的に捉えるのではないということ。今のお母さんたちは「遊び」といったら、スマホで動画などを見ることも遊びだと考える人がいますが、それは幼児に適した本当の遊びではないということも言っていただきたい。
- ・これから情報発信がされるので、いろんなコンテンツで、毎回説明していかれると思うが、乳幼児期の「体験」というものも重視していただきたいと思う。

○委員

- ・「教育改革」ともつながるものということで、さきほど残してほしいとおっしゃった、

この「予想外の事態……」の下りだが、これは超スーパーマンみたいな人だと思う。これを押しつけられたら、「もう無理だ」みたいな感じになると思う。今は多様性とかもよく言われているので、いろんなタイプの子がいていい。自信がない子がいてもいいし、引っ張る子がいてもいいし、その人たちが、みんなで一緒にいることで、この最終的なスーパーマンの状況が何かクリアできるというようなことを発信できると、お母さんたちが余りプレッシャーがかからないのではないかなと思った。

○委員

- ・この部分は否定しているわけではないということを申し添えながらだが、昨日、たまたまある幼稚園の先生とお話する中で、その先生が「子どもの仕事は遊びである」ということをおっしゃった。それがその保育園の方針でということだった。「子どもにとって大切なのは「遊び」なんだ」ということがメッセージとして伝わる、キャラクターなのか、キャッチフレーズなのかみたいなことがバツと出る。それを保護者の方が受けられて、「そうか。子どもというのは遊びを通して成長していくものなんだなあ。幼稚園とか保育園というのは、そういうことを体験させてくれる場なんだなあ」ということをきちんと理解されるということが一番大事なのではないかなと思う。そういうメッセージ性のあるものの発信とを考えていただければいいのかなと感じた。

○委員

- ・まさに1ページ目のところに書いていただいているのは、そういうようにしようとしていただいているのだと思う。事例を書いて、この遊びの中で、教育的な観点から見ると、こういうことに意味があるんですよという、発信の仕方になっていくと思う。例えば、こういうお友達と仲よく遊んでいる、こういうことで理解力が生まれていきますとか、そういうようなことのメッセージをこの事例のところで発信していくことを想定していただくと理解している。

○委員

- ・「遊びは仕事だ」という言葉は、教育学者のフレーベルも言っている。子どもの遊びというのは、やはり大人の遊びとは違って、子どもは真剣勝負で遊んでいるんだという意味で、「仕事」という言葉が出てきている。いきなりそれを書くと、一般の人はちょっと混乱するかもしれない。その辺がちょっと注意したほうがいいかと思う。

(2) 幼保連携型認定こども園、保育所、家庭的保育事業等の認可
及び利用定員の設定について

●事務局

資料3により説明（省略）

（質疑なし）

- ・小規模事業所は、代替園庭として公園を使うことが多いが、複数の園が活用しているような公園、もしくは大きな法人が活用しているような公園を芝生にできないか。東灘区の幼稚園が低コストで園庭を芝生にされて、子どもたちの活動量があがったと聞いている。灘区の大和公園にも小さな芝生エリアがあってそこで親子が遊んだり寝転がって絵本を読んだりしているそう。 「遊び」が「学び」ということを体現するうえでも、環境整備は非常に重要な要素だと考える。怪我無く思いきり「遊べる」芝生の整備を地域と園を運営する法人とが協力して実現出来れば、神戸で子育てをしたくなる人が増えるのではないかと期待する。